

10月18日
報告

「第13回 中国人受難者を追悼し 平和と友好を祈念する集い」報告

2020年10月18日、13時半より「集い」が開催され、
その後追悼法要が行なわれました。

村中 信行

朝晩はずいぶん冷えるようになってきたとは言え、日差しのある日中はまだまだ暖かい秋晴れとなった10月の第三日曜日、「中国人受難者を追悼し、平和と友好を祈念する集い」が記念碑前で開催されました。少し雲はありましたが、よく晴れ渡った安野の山あいの空に竹内ふみのさんの奏でる二胡が追悼の音色を響かせます。毎年のこと



とではありますが、竹内さんの演奏する中国伝来の楽器の調べは参加者の「集い」への思いをさらに深いものにしてくれているように感じます。

去年は中国人受難者・遺族と西松建設との間で、和解が成立して10年でしたが、今年はその和解を受けて「記念碑」が建立されて10年となる節目でした。その節目となる今回の「集い」でしたが、年の初めから世界を席巻する「新型コロナウィルス」の脅威から、中国の関係者をお呼びすることはできませんでした。受難者・遺族の方の訪日を断念しただけでなく、例年は「集い」の開催前に行なっていた安野発電所貯水槽周辺のフィールドワークも中止し、参加者の募集も積極的にはせずに、広島市内から出していた参加者の送迎用マイクロボスの運行も取りやめました。

「集い」は例年通り岡原美知子さんの司会のもと、黙祷から始まりました。「継承する会」の世話人代表・足立修一弁護士が主催者挨拶をした後、

来賓からの挨拶を受けます。中国人受難者・遺族の方は招くことができなかったもので、メッセージをいただきました。そして安芸太田町長・橋本博明さん、善福寺住職・藤井慧心さん、広教組委員長・頼信直枝さん、中国駐大阪総領事・何振良さん(これはメッセージ)、と挨拶をいただきました。今回の「集い」では安芸太田町長、広教組委員長が交代されていましたが、例年同様に「集い」に参加され、「集い」を支えていただいたことに感謝するとともに「歴史が繋がっているのかな」ということもできました。

その後、竹内さんが二胡で追悼の楽曲を演奏し、その二胡の調べとともに参加者全員で記念碑に献花をし閉会しました。これも「新型



足立修一 継承する会代表



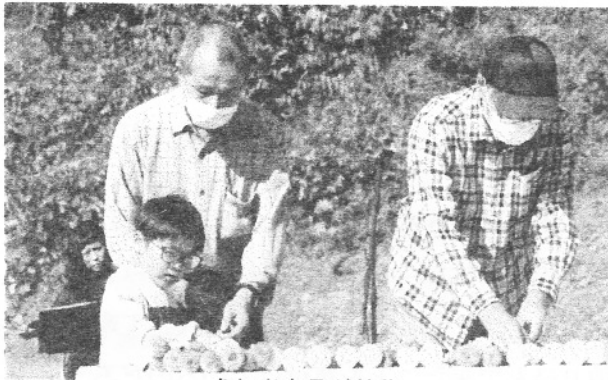
橋本博明 安芸太田町長



藤井慧心 善福寺住職



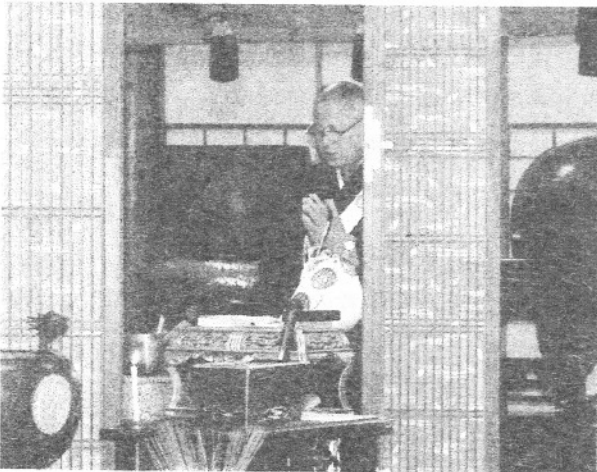
頼信直枝 広教組委員長



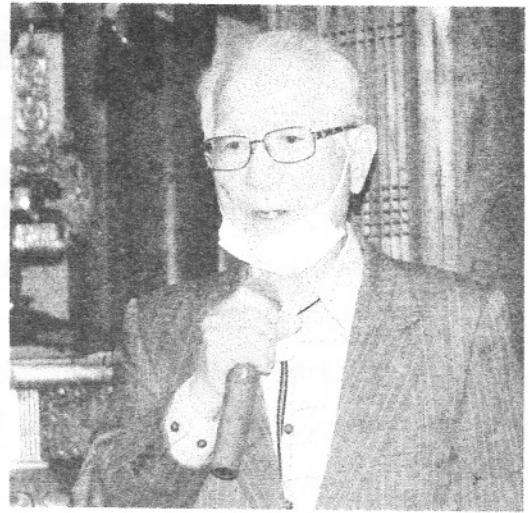
参加者全員が献花

「新型コロナウイルス」への対処ですが、最後に参加者全員で撮影する集合写真も今年は行ないません。

「集い」の後、参加者の多くは善福寺へ移動して、追悼法要に臨みました。藤井住職の「阿弥陀経」の読経とともに、例年通り中国式と日本式の焼香を



皆でします。善福寺には安野で亡くなった中国人のうち5人の遺骨が一時保管されていた縁で今に繋がっています。受難者・遺族はここでの法要でも心が慰められ、「和解」への気持ちも固まっていたのではないかと「継承する会」の川原洋子事



栗栖薫さん

務局長は話されていました。法要の後に当時の様子を知る栗栖薫さんが証言をされました。すでに戦後75年、もう当時のことを知り、証言できる人もほとんどいなくなります。安野の強制連行の日本人の証言者も栗栖さんが最後の一人だということでした。

「新型コロナウイルス」の影響でさまざまに制約を受けた「集い」と「法要」でしたが無事今年も終了しました。特に中国人受難者・遺族を招くことができなかったことは残念ですが、川原さんは「集い」は日本と中国の交流ということだけではなく、「中国人強制連行」という日本の歴史を継承するということでもある、その意味で日本側で「集い」を続けることは大事である、と言っています。

最後に今回の記念碑建立10周年の「集い」に向けて中国人受難者・遺族の方が寄せたメッセージの一部を紹介したいと思います。

「…… この記念碑は、歴史を継承し続けるだけでなく、中日人民の友好の証人であると強く信じています。

中日両国、そして両国人民が世代を継いで友好でありますように！」